選考委員長講評

「女性いきいき大賞」は今回で4回目になります。今回応募された団体は46団体で、これは過去最多の応募数でした。1次選考では各分野を念頭におきながら17団体に絞り、2次選考では分野ごとに優秀賞一つを選び、その中からさらに最優秀賞を決定しました。また、優秀賞には選ばれませんでしたが、それに次ぐ評価の高かった団体を「奨励賞」としました。今年の特色は、各分野の優秀賞を決定すること、その中から最優秀賞を選ぶことが大変難しかったことです。これ

梅光学院大学 教授 樋口 紀子



はどの団体もそれぞれ"いきいき"と活動しておられ、活動内容も多彩で、甲乙つけがたかったからです。これは「学生の部」でも同じでした。中でも、ボランティアを気軽にできるものとして若い人たちに紹介していることが評価され、山口県立大学社会福祉学部の「学生ぷちボランティアセンター」になりました。どの団体もこの受賞をきっかけに、地域のためにより"いきいき"と活動して下されば幸いです。なお、今回の優秀賞団体の授賞理由は以下のとおりです。

○特定非営利活動法人 あっと(最優秀賞・山口県知事賞):子育て分野

この団体は市から委託された事業だけではなく、地域の母親たちに対して、母親ならではの独自の視点と発想で情報提供しておられます。また、子育てだけではなく、中心市街地の活性化対策にも取り組んでおられるということは、他の市町村にもその活動を事例として紹介し、活性化をうながすことができるのではないかと思われます。しかも、このように活発に活動しておられますが、今まで受賞経験がないということもあり、これをきっかけに広く知って頂くためにも最優秀賞となりました。

○特定非営利活動法人 周南いのちを考える会(優秀賞・朝日新聞社賞):福祉分野

この地域に緩和ケアやホスピスがないから作ってほしいという要望に応え、関係先に何度も断られたにも拘わらず、自分たちの力で一からそれを作りあげたというその"パワー"が高く評価されました。また、この団体は前年にも応募されましたが、その1年の間に「きららサロン」という新たな活動を立ち上げ、その活動に広がりがみえたことも今回優秀賞を受賞した理由です。「いのちの質」が課題になっている昨今、活動を通して、人のいのちの大切さを多くの人々に伝えていってほしいと思います。

○NPO法人 劇団「たね蒔く人たち (優秀賞・yab 山口朝日放送賞): くらしづくり分野 この団体は、演劇という活動を通して、地域の文化向上に寄与するだけではなく、光市の多くの市民 や地域の他のボランティア団体を巻き込みながら活動しておられることが評価されました。また、活動 人数も多く、それぞれの役割分担もはっきりしており、何よりも一人ひとりが楽しみながら活動しておられることも受賞理由になります。今後も人々の心を豊かにするような作品を多くの方々に届けてほしいと思いますし、「ボランティア活動は楽しいものだ」というメッセージも伝え続けてほしいと思います。

○小野地区女性連絡協議会(優秀賞・山口新聞社賞):地域づくり分野

防府市小野地区は今年度、大きな水害があった地域です。そのためにこの地域の多くの団体が数々の行事を取りやめましたが、そのような中、「こういうときだからこそ頑張る」という思いのもとに活動を続けられたことが評価されました。このように何か大変なことがあった時にこそボランティア活動が重要ですが、今年度の活動を通して、そのことを教えてくれた団体でもあります。"ボランティア元年"と言われた「阪神淡路大震災」から15年がたちましたが、その年にふさわしい団体の受賞だと思います。

最優秀賞(山口県知事賞) 特定非営利活動法人 あつと

代表者 久保田 美代(子育て分野/山口市)

活動の動機・目的

平成15年、山口市が子育でサロンの設置運営を「NPO法人山口せわやきネットワーク」に委託。当時市内で育児サークルを中心に活動していた母親数名がスタッフとなり、「ほっとさろん西門前でとてと」を中心商店街空き店舗に開設。その後、独立し、「あっと」を設立。子育で支援を中心とした活動を行い、子育で中の家族とそれを取り巻く地域の人々に対して、子育でから始まる地域コミュニティの創造に寄与することを目的とする。

活動の内容

- (1) 「ほっとさろん西門前てとてと」の運営
 - ① つどいの広場提供事業/主に乳幼児を対象にした交流の場の提供。スタッフが常駐し、親子が自由に出入りできる。学生のボランティアも多く受け入れている。
 - ② 子育て相談事業/子どもの発育相談や子育てサロン・サークル運営等の相談にのる。
 - ③ 子育て情報収集提供事業/広報誌発行、子育て関連のちらしやポスター掲示。
- (2) やまぐち子育て公益ポータルサイト「あっとほーむ」の運営
 - ① 子育てカレンダー(育児講座やイベント情報を掲載)
 - ② サロン・サークル情報
 - ③ 取材コーナー&初めてナビ(お出かけスポットや支援者情報等を母親たちが取材し掲載)
 - ④ ブログポータル (市内子育て関係団体のブログ掲載)
- (3)「やまぐち子育てサポートブックなびっちゃお」の発行

市内の幼稚園や保育園の正確で公平な情報、つどいの広場や子育てサークルなどの子育て支援情報を企画・取材・編集・レイアウトし、個々の家族にあった選択ができるようサポート。

「てとてと」を基盤として、現場で大事なことやニーズが見え、気づき、日々活動する中から次にすることが生まれていく。在宅で情報が得られるようにHPを開設したり、でも見られない人や子供を寝かせながら読めるように冊子も作ったりと、様々な視点から活動を広げることができた。

これからめざしたいこと

- ① 今現在育児中の母親がほっと一息ついて元気になること
- ② 10年後、子育てを終えたママが地域を支える人材になっていること
- ③ 20~30年後、今の子どもたちが子育てする時に「地域の子育て」が実現していること

と考え、実現のために、日々、運営側が、めまぐるしく変わる子育て状況をキャッチできるアンテナを持ち合わせ、事業の想いを共有すること、そして子育て中の母親やそれにかかわる地域の人々を支援者として、活動に関わってもらえるよう仕組みづくりの模索をすすめ、活動していく。





優秀賞(朝日新聞社賞)

特定非営利活動法人 周南いのちを考える会

代表者 前川 育(福祉分野/下松市)

活動の動機・目的

がん体験者が、同室の患者仲間が痛みに苦しみながら亡くなっていく姿を目にし、ホスピス・緩和ケア病棟の必要性を感じたこと。「山口県東部にホスピス・緩和ケア病棟設置を」という願いのもと活動を開始し、08年に社会保険徳山中央病院に念願の緩和ケアが開設された。今の目的は患者会や患者サロンなどがん患者へのサポート、県民へのがんに対する啓発活動を行うこと。

活動の内容

開設にあたっての動きは

- ① 地域の人に認知してもらうための講演会・講座(市民のためのホスピスケア講座)を開催。
- ② 行政との連携が不可欠で同時に地元病院との折衝を重ねる。山口県東部にホスピス・緩和ケア病棟 設置を願い、2万5千筆署名を集め、要望書提出するも断念。その後、県や厚労省へ働きかけを重 ね、県の担当者の熱意、メンバーの思い、知事の理解により、昨年3月に正式に県から許可。 今年度からの新たな取り組みとして
- ① 山口県立総合医療センターに「きららサロン」が開設され、毎週1回主体となって活動。 入院中や通院中の患者さんが利用でき、パソコンやプリンターでがん情報の入手、DVDや本の貸 し出しを実施。スタッフは、2~3人が当番でお話を伺い、前向きな気持ちになっていただけるよう心 がけている。相談内容によっては病院スタッフと連携をとって対応している。
- ② 厚生労働省「がん対策推進協議会」委員に代表者が選ばれ、緩和ケアやがん医療に関して患者の声を代表して発言していく。
- ③ 徳山中央病院緩和ケアにがんセンターから傾聴ボランティアの依頼を受け、個人的にボランティアの登録をした。

他にも、いままでの活動である、「患者会(ラ・ビューの集い)」、「遺族会(そよ風)」の場の提供を毎月1回、会報発行を年4回、手記集発行、勉強会開催、代表個人の活動として電話相談を継続して行っている。

これからめざしたいこと

「きららサロン」をうまく運営し、このことをきっかけに将 来的に、各がん拠点病院に「がん患者サ

ロン」の開設ができればよいと願っている。同じ経験をした 仲間としての対応を心がけ、「くつろぎの時間」をもっていた だければと思う。また、「徳山中央病院緩和ケア病棟」が患者・ 家族の心に寄り添った温かい病棟、そして地域に根ざした病 棟として稼動していくのを市民として見守っていく。







優秀賞(yab山口朝日放送賞)

NPO 法人 劇団「たね蒔く人たち」 代表者 梅津 聖子 (くらしづくり分野/光市)

活動の動機・目的

2000年光市民ミュージカル「きばのないおおかみ」、2002年「COSMO〜宇宙(そら)からきた仲間」公演の後、さらに地元で演劇活動を続けたいと志した女性を中心とした有志が、演劇グループ「たね蒔く人たち」を結成した。市民ミュージカルで得た、年齢や立場を超え、ひとつの舞台を創り上げる達成感、表現する楽しさや歓び、ひととふれあうことの素晴らしさを伝えていきたいという思いから。

活動の内容

① 定期公演として年1回、キャスト・スタッフを一般公募して行う。

2009年度は、2月実行委員会立ち上げに際し、会員が中心に呼びかけ人となり、「光市民ミュージカルの会」を組織。劇団は共催という形で。総勢150人ほどで、ミュージカル「おばけが走る」を創り上げた。昼夜2公演、1200人の観客動員。ほぼ半年にわたる稽古を重ね、成功させた。

②学校公演

県内の小中学校からの依頼で公演。年間平均12校。現在6作品「赤い甲羅のカッパ」「里山小噺」「ようこそ注文の多い料理店へ」「よだかの星」「さんねん峠」「手袋を買いに」。ただいま新作を制作中。学校の規模やステージの広さ、スタッフ人数を考慮し、内容を工夫して公演。

③表現教室

表現の基礎やコツを一緒に勉強する教室。役の気持ちを思いやることから始めて、舞台でリアルに活きるための稽古をする。声の出し方、内容のとらえ方、作品の中の役割等。経験豊富な会員が講師となり、主に子どもを対象に行う。作品は定期公演の中で発表。

演劇指導

小・中学校の文化祭、音楽祭に向けての稽古に参加し、指導の先生方のお手伝いをして演劇指導を する。また、地域劇団「わらわら一座」「劇団わ」の作品・演出へのアドバイス、演技指導を行う。

⑤地域交流活動

市民活動体験講座「けっこうイイかも 市民活動」で、「演劇体験講座」を開催。ミニミュージカルを参加者で創り上げ、日頃の自分から一歩踏み出そうというワークショップ。皆、仕事を持ちながらの活動なので、時間的、経済的にも大変だが、光市の他の団体(人形劇、紙芝居、地域劇団)の仲間とも協力しあって活動している。

これからめざしたいこと

ひとつの舞台を共に創りあげていくことで、地域・職場・ 学校・世代を超えたコミュニケーションの場をひらいていく。 自分たちが楽しむということだけでなく、色々な人たちを巻 き込んでつながっていくことで、広げていきたい。また、表 現の不得手な特に子どもたちに表現する喜びを伝えたい。特 に学校公演を通じ、生身の人間が演じることの良さをもっと 知らせていきたい。





優秀賞(山口新聞社賞)

小野地区女性連絡協議会

代表者 光貞 富子(地域づくり分野/防府市)

活動の動機・目的

防府市の最北端にあって人口4000人弱の農村の高齢化が進んだ地域において、「住んでよかった、生きてきてよかった小野づくり」をスローガンに、女性が主体的に参画した老若男女共同参画の地域づくり、また、高齢者の「生きがい」づくりに取り組み、地域の活性化をめざす。

活動の内容

- ① お月見会の開催(女性の地位向上をめざしながら、同時に地域住民の語らいの場として) 地域在住女性の手工芸品の作品展と演奏会などと手作り料理の夕食会の3点セット。
- ② 新年に集う会の開催(地域住民の集いの場として)

「今年1年、みんなで頑張りましょう」という元気コールを送る会として開催。基本スタイルは 会食と演芸、富くじ抽選会、干支の方の一言スピーチ。特に、一人暮らしの方へ参加を呼びかけ、 60才を迎える方には、地域に紹介も兼ねて一言スピーチと富くじの抽選者にもなってもらう。

- ③ 子育て支援事業(伝統文化の継承と郷土愛など三世代交流を通して学びとふれあいの場を)
 - 夏休みの4日間を小学校に出向き、手芸や木工作りの指導、見守りのボランティアを実施。
 - ふるさと探訪 「宇佐八幡宮」小学生から高齢者までを対象に「お花見遠足」を開催。簡素なおにぎり弁当を用意し、郷土史研究家の方から行事にちなんだ話や解説、文化財の説明を聞く。
- ④ 小野ふれあい劇団支援協力(地域の活性化をめざして) 平成10年、公民館や地域役員、小学校長等と相談し、小野地区に劇団を起ちあげた。今回の大水 害において殆どの地域行事が見送られる中、地域の元気復活に役立てばとの願いをこめて上演。
- ⑤ 新たな取り組みとして、「老若男女共同参画」での地域づくり 男性の新役員が加わり、今年度「地域起こしプロジェクト」事業に取り組む。農村地域を活かした 有機米と佐波川の鮎で、「鮎炊き込みご飯」の開発を試みている。
- ⑤ 友愛フェスタ開催

7月の水害で家も家財もなくなった人がおられる中、生活必需品を募集し、転居された方には案 内状を出し、必要な人に差し上げた。同時にぜんざい、鮎のたきこみご飯をふるまい喜ばれた。

これからめざしたいこと

14年目を迎え、地域の女性たちが企画して0からスタートし、10年間は種まきの期間として進め、現在は地域からも認知されてきている。将来歳をとっても、私たちもこの地区に住み続けたいし、地域のみんなも暖かくあってほしいとの思いがあるので、「住んでよかった、生きてきてよかった小野づくり」のスローガンをずっと掲げ、この地域を守っていきたい。





コープやまぐち奨励賞

育児ボランティアほほえみ

代表者 松原 玲子(子育て分野/下関市)

活動の動機・目的

平成10年勤務先の市立こども家庭支援センターで双子を育児中のお母さんたちから悩みを分かち合える場が欲しいと聞き、「下関ツインズ・ファミリー」を立ち上げたことがきっかけ。

ツインズ支援は人手がいくらあっても足りないので、ボランティアグループを結成。

「遠くに住む孫より地域の孫支援・親育ち・子育て応援団」のスローガンのもと、母親の育児不安の 解消、育児力や生活感覚を身につけるお手伝いなど、シニア世代が中心となった子育て支援をめざす。

活動の内容

- ① 子育てサロンの開催
 - ・くらし術サロン(毎月第1水曜日・午前中)ノンプログラムが原則。私たちの世代が子どもたちにバトンタッチし忘れたくらし術を伝える(育児相談、衣類の繕い、今日の献立など)。
 - ・くつろぎ広場サロン(毎月第3水曜日) うた(童謡)、手遊び、親子体操、絵本読み聞かせ、フリートーク。対象は未就園児親子、スタッフは $10\sim15$ 名。 2時間だけ、母親が「ぼんやり」「ほっと」する時間にしてあげたい。
- ②下関市役所・一階市民サービス課「キッズスペース」で来庁者の為の一時託児(毎週月曜日午前中) 二人一組の当番制で実施。また、市内の育児情報を的確に教えてあげることができる。
- ③下関ツインズ・ファミリーの支援(毎月第4土曜日)
- ④グランマの絵本の森(毎月1回開催)

絵本に関心のあるシニアが集い、シニア同士での絵本の読みあいと感想交流、情報交換を行う。 一話は民話を取り入れ、メンバーの脳の活性化に役立ち、楽しいおしゃべりの場となっている。

- ⑤平成20年度には、「変身!シニアレンジャー これからが面白い、社会の孫育て人生」〜祖父母の子育て支援応援講座を毎月1回、全5回講座を開催。講師は、いずれも下関在住の保健師・絵本専門店代表者などで、地域の実情に合ったものを講演、質疑応答、ワークショップなどの形式で。
- ⑥平成21年度は「市民活動助成事業」に応募し「変身!シニアレンジャー これからが面白い、社会の孫育て人生」〜祖父母の子育て支援応援講座パートⅡを毎月1回、全3回講座を開催。

これからめざしたいこと

継続が大事なので、少しずつでも続けていく。自分たちも現状を勉強し、指導者ではなく、一緒に 歩んでいくという姿勢で地域をこれからしょって立つ親や子に伝えていきたい。仲間が多いので、ア イデアが浮かんだらすぐ実行してみることが自分たちの信条。パワーアップ研修会で事例発表したこ とがきっかけになり、他地域にもひろがってほしいと願う。





コープやまぐち奨励賞

どんぐりの会

代表者 藤村 和枝(福祉分野/周南市)

活動の動機・目的

萩の幼稚園で保護者が一緒に布のおもちゃを作られていて、周南の地域でもできないだろうかということがきっかけ。最初は作品を作ることのみだったが、心身障がい児が安全に遊べるおもちゃを作って交流しようという今の活動に広がった。心身障がい児の福祉推進と文化教養の向上に寄与することが目的。

活動の内容

布の絵本、おもちゃの製作および貸し出しを行っている。創意工夫をこらした作品は、約200点。 主に小学校の特別学級の先生から、「遊びながら学習できるものを」との要望に応え、皆でアイデアを 出し合い、利用者側の意見も参考に創り上げる。他に、心身障害児の機能訓練や教材、また、老人福祉 施設のリハビリやストレス解消に利用されている。

丈夫な布製なので、壊れることがなく、破れたら繕えるし、汚れたら洗うことが出来る。貸し出した ものは年に2度、クリーニングと修繕のために回収し、夏休み中の1日、活動紹介を兼ねて作品展を実施。

活動は、21年間・週に $3\sim4$ 回作品作りの為に集まる。現在、小学校4校、障害児施設2ヶ所、老人施設1ヶ所、子育て支援2ヶ所に貸し出しを行っている。

作品は

布の絵本 「かさじぞう」「すうじのうた」「おおかみと7匹のこやぎ」等

おもちゃ 「すごろくセット/大きなサイコロとすごろく用こま」「魚釣りセット」

「くっつくキャッチボール」「ダーツ 鬼など」「つかまえネコセット」等

教材 「あいうえおキューブ」「キャンディー九九セット」「分数ケーキ (いちごショート)」

「数のおけいこ(買い物ごっこセット)」「絵合わせ神経すいじゃく」「掛け算九九

カードセット|「全県取り外しのきく大きな日本地図|「時計|「お弁当セット」等

当初は障がい児用に作ってきたおもちゃだが、貸し出した特別学級の先生から、普通学級の子どもたちと共に遊ぶことで、健常児も一緒に楽しめるおもちゃも製作するようになった。近年は、老人施設からの申し込みもあり、安全でリハビリに良いと好評。

これからめざしたいこと

一般学級の子どもたちとの交流の場となり、この作品がきっかけとなって、お互い、ふれあいの大切さややさしさを育む手助けになればと思う。製作時、会員との雑談の中からアイデアが出ることもあり、今以上に高度なもの、特に考えて使えるおもちゃ作りをコンセプトに継続していく。元会員が下松市で同様の活動をしているの

で、お互いに作品展を開き、ア イデアの交換や教えあいをして いる。今後も継続していきたい し、他地域にも広がることを望 んでいる。





コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口県立大学社会福祉学部学生ぷちボランティアセンター

代表者 小田上 典子(地域づくり分野/山口県立大学)

活動の動機・目的

社会福祉学部の学生らが設立。ボランティアに関する悩みや不安を気軽に相談できる場があればよいという学生のニーズを、当時の先輩方が、自分や友人の体験から感じ、活動を開始した。以来、『学生による学生のためのボランティアセンター』として同じ学生の立場から、同じ目線で学生のみなさんの『ボランティアはじめのいっぽ』を支援することを目的に、日々活動。

活動の内容

障害者、高齢者、児童施設など約30施設から常時募集の依頼を受け、情報を発信。情報を整理し、 学生のみなさんに提供。情報班の掲示板では、児童や高齢者、障がい児・者などのジャンルに色分け して貼っている。さらに常時募集と期間募集に分け、学生のみなさんがほしい情報をスムーズに得ら れるよう努めている。

- 日常業務として ボランティア情報の提供および掲示板の運営(ボラリストを作成・ジャンル、活動内容、連絡先 を掲示)、ボランティア通信の発行・配布、HPの更新・管理
- 定例会議開催 毎週木曜日18時~、山口県立大学地域交流スペースYucca (ユッカ) 内容は、企画の立案・反省・今後の活動についてなど
- 企画提供 ・ボランティア体験ツアー

障害者施設や子育てサロンにぷちぼらスタッフとともに体験する。 ツアーの前に茶話会を行い、施設(てとてと、ラ・ベルヴィ、身体障害者療護施 設なでしこ園など)の紹介や車椅子の介助方法などを学習。

- ・外部組織の理事長をお招きし講義を依頼 など
- 7月豪雨災害ボランティアでは給水ボランティアを約1週間。防府市へは、防府市災害ボランティアセンターの運営に関わった。同じ県立大学学生ボランティアセンターとして、元々教育の面で交流のあった岩手県立大学学生ボランティアセンターから、新潟中越地震ゆかりの風鈴を届けていただき、応援していますとのメッセージは心強かった。

これからめざしたいこと

多くの人と人とのつながりを大切に、人との出会いの温かさを教えてくれるボランティア活動の『は じめのいっぱ』を後押ししていきたいと思う。そして学生と共に一歩を踏み出し、歩んでゆける学生



ぽこぽこ

代表者 小林 芳恵 (子育て分野/山口市)

活動の動機・目的

未就園時の子育てママと子どもたちの集いの場として発足。核家族になって、周りに子どもたちが少なくなってきているので、子どもたちの集まる場づくりを目的にする。

活動の内容

○ 活動日は毎月2回、午前中が基本。

第2月曜は 基本は行事を開催

遠足(5月 JRAウインズ小郡、6月山口きらら博記念公園)、プール遊び、がはは本舗 さん お店屋さんごっこ、運動会、クリスマス会、KRY 視聴学習会、絵本を読むよ、お別れ 会など

第4月曜日は オープンハウス形式で、自由に遊んだり、お母さん同士の交流を行う。

※毎月お誕生日会を開催

- KRY「はつらつ山口っ子」モニター&学習会 毎週日曜日朝15分間番組 内容 番組を見て、感想を提出 番組内のアドバイザーを招いて学習会開催
- ラボ (英語教室)

先生に来ていただいて、歌を歌ったり、絵本を読んでもらって遊ぶ。お母さんは絵本を読んで あげることの大切さのお話を聞いた。

- ぷちネット(山口市内の育児サークルのネットワーク)に登録
- 子育てメッセ(山口市近郊の子育てサークル合同)にパネル展示で参加
- Mamatoko (子育で情報フリーペーパー) 配布
- ペットボトルのふたと古切手集めの協力(上郷児童館)

10人のお世話係を決め、2人が当番となり、企画していく。メールの連絡網で無理なく活動できるようにしている。

これからめざしたいこと

家で子育てをしていたら、親子だけの世界になってしまう。横のつながりができ、上の子供さんがおられる方から、アドバイスや幼稚園、小学校の情報を得られることや定例の活動が終わった後は自由にお弁当をもってきたりして、遊べる自由さも良い。このような活動を自分たちの手で、仲良く継





下関空襲・終戦展実行委員会

代表者 井手 久美子(地域づくり分野/下関市)

活動の動機・目的

故郷土史家(澤忠宏 H16年没)の「戦争関連資料」を元に、翌年(終戦60周年)を機に、有志一同により開催。また、展示スペースの空きを利用して、戦時下の市民の談話や手記をまとめ、「言葉パネル」として掲示したところ、多くの参加者に共感と驚きの波紋が広がっていった。以後、企画展同名で実行委員会を発足し、企画展開に併せて、当時の庶民の「あの時、この時」を手記や聞き書きで書籍にまとめ、次世代へ語り継ぐことを目的にしている。

活動の内容

·	
H17/8月	下関空襲・終戦展 下関市立図書館
	① 恩師の遺作および戦争関連資料を展示②「言葉パネル」掲示
H18/6月	テーマ「言葉でつづる関門焦土の記憶」 にししんギャラリー
	① と②新言葉パネル③空襲時の遺品展示 刊行物「関門焦土の記憶」
H19/6月	特別企画展「小林喜三の軍事郵便展」
	①軍事郵便現物②家族写真/遺品等 編集参画「ツルブからの手紙」
8月	テーマ「軍国乙女たちの青春」①/②/③学徒動員パネル 他刊行物
H20/1月	特別企画展「小林喜三の軍事郵便展」 海峡ドラマシップ (北九州市)
8月	テーマ「引揚者の証言」 ①/②/③
	④舞鶴引揚語りの会より貸し出しの紙芝居二作品を上演 他 刊行物
H21/8月	テーマ「あのとき、この時 引揚者の証言」 にししんギャラリー
	①/②/③/④北朝鮮からの引揚者による講演会実施 他刊行物

- ○新たに原稿を募集し、言葉パネルを作成。絵は自身が朝鮮からの引揚者でもある行 ストレーター新屋幸彦氏の「戦闘機隊の栄光と落日」をテーマに挿絵原画を中心に展示。
- ○当日は、北朝鮮より引揚げの篠原禮子さんの講演「引揚げを想いて」
- ○展示は特攻隊基地「知覧」の整備兵だった故川尻勉さんのゼロ戦模型と一回り小さなゼロ戦、昨年より大きな引揚げ船模型「興安丸(全長150)」

これからめざしたいこと

戦争のない現代、かつて「平和のための礎」となった人々の上にある「平和」や「命」そのものの 大切さ、「祖国」の大切さを提言していく。次年度は下関空襲を題材に「海峡が燃えた日」と題し、パネル展を企画。同題材にて「演劇」と「一人芝居」の脚本にチャレンジする。





く~ちゃん、がっちくん

代表者 児島 幸恵(地域づくり分野/岩国市)

活動の動機・目的

「読み聞かせをしてくださる方を募集しています」という学校の呼びかけに集まったのがはじまり。 読書離れが進むと言われている今の子どもたちに、本の楽しさを伝えると共に、想像力を豊かにして ほしい。また、病院に入院している子どもたちに、おはなし会をすることで、院内でも心は豊かであ ってほしいし、気分転換の助けにしてほしいとの思いで活動。

活動の内容

- ① 小学校での読み聞かせ会と交流会(折り紙づくりなどのお楽しみ会)を月2回程度
 - ・全校児童を対象にした読み聞かせ会
 - ・クラスを対象にした読み聞かせ会
- ② くがっち文庫の設置拡充および学校図書館の環境整備補助
 - ・講師で出かけたときのお礼金で本を購入(古本市をのぞいては買い集めている)
 - ・子どもたちが借りやすいように、棚割りを工夫したり、壁面の飾りつけをしたりしている。
- ③ 入院している子どもたちを対象に病院での読み聞かせ会を月1回程度開催 絵本や児童書を寄贈。
 - 以前は年1回の開催だったが、要望により、病院の近くに住んでおられる方でボランティアしてくださる方を探し、今は月1回程度開催している。
- ④ 市近郊の保育園や図書館などで、家庭教育学級の講師として読み聞かせ会の実施(依頼によるので不定期)
- ⑤ 読み聞かせ練習を週1回程度実施

いつも手作りの「くがっち人形」2体を連れていく。

上記内容は

エプロンシアター、パネルシアター、絵本 (大型絵本を含む)、紙芝居 実物投影機をプロジェクターで投影してのスライドショー、折り紙、簡単な工作

これからめざしたいこと

読み聞かせに参加する子どもたちの笑顔がなによりの力となる。練習や交流会は井戸端会議的に楽しく実施。子どもたちの認知度が上がり、町で声をかけてくれたり、気軽に話しかけてくれるのがうれしい。学校とのコミュニケーションをしっかりとりながら活動を続けていきたい。





ぬまぎ文庫

代表者 三芳 慈(地域づくり分野/周南市)

活動の動機・目的

第2土曜日の休日制定をきっかけに、「土曜日文庫」として誕生し、当初ボランティアの母親8名で本の貸し出しから始まる。地域の子どもたちに本の楽しさを広め、母親の交流を推進することを目的に、支援・協力するボランティア会員で地域の子どもたちの読書を支援する様々な活動を展開する。

活動の内容

定期的活動は

月1回定例会開催、毎週土曜日文庫開催

沼城小学校お昼休みお話会:毎月第2、4木曜日

須々万幼稚園読み聞かせの会:毎月1回

08年度の実績

5月 中央図書館お話会 6月 須々万幼稚園お話会 7月 今宿幼稚園お話会

8月 須々万農村環境改善センターにてこわいお話会

幅1,8mの組み立て式の舞台で中のカーテンを開けて影絵や人形劇をする。今回は、「耳なし芳一」を影絵で。シンセサイザーで不気味な効果音を出し、雰囲気たっぷりに読むと、子どもたちから「怖い〜」という声が。

夏休み手作り絵本の会開催

- 10月 中央図書館お話会
- 11月 コープ子育てネットワークへお話会、下松ファミリーサポートへお話会
- 12月 須々万農村環境改善センターにてクリスマス会
 - 2月 セラヴィ徳山デイサービスへお話会(徳山中央病院)

内容は

絵本、大型絵本、大型しかけ絵本、紙芝居、大型紙芝居、パネルシアター、ペープサート、絵巻、エプロンシアター、プロジェクター、影絵、影絵遊び、手遊び、手袋人形、うた、工作、折り紙、ハンドベル

これからめざしたいこと

地元の小学校や幼稚園とのつながりもでき、夏のお話会や手作り絵本の会、冬のクリスマス会も恒例になった。地域に根ざした活動をすることと、子どもや親たちに本の面白さ、聞く楽しさを伝え、豊かな心を育てるお手伝いをしていくこと、自分たちも学びながら生きがいとして活動しようという気持ちを忘れないようにしたい。「できる人ができる時に」をモットーに楽しく長く活動していく。



